

ただ学校のお役に立ちたい、それだけで研究やっています

島根県教育センター 所長 村本 愛治
島根県教育センター浜田教育センター長



「おやっ！」と聞いていただければ

令和4年5月に、本年度の教育センター主催の教育研究発表会を実施しました。その際のチラシに載せたキャッチコピーが、「ただ学校の・・・」です。これは、単に研究発表会のためのキャッチコピーのみならず、教育センターの果たすべき役割の一つを端的に表現したものです。教育センターの所員がめざしている方向性の表明でもありますので、各種研修会等でのあいさつでも、教育センターの枕詞として使うようにしています。「おやっ！」と聞いていただき、教育センターからの発信が皆様に届くことを期待しております。

「啐啄同機」の言葉の重み

さて、私事ですが、本県の教員に採用されて36年が過ぎようとしています。先日、初任の頃にお世話になった校長先生の訃報が届きました。その校長先生が、教職員に対して「啐啄同機（さいたくどうき）」という言葉で、教育者としての心構えをお話になったことがありました。正直言って、その頃の私は経験も浅く、ピンときませんでした。この言葉は、禅語で、「啐」はヒナが卵の殻を破って外に出ようと内側からつつく音で、「啄」は親鳥がヒナの孵化を助けようと外側からつつく音を表しており、その音が同時にひびいているという状況を表現しています。殻を内側と外側から、絶妙のタイミングでつつくことで、ヒナは最適な時期に、安全に誕生することができます。これは学習者と指導者の関係を考える上でとても意義深い言葉だと思います。学ぶ意欲が高まり、必要な支援を求めてきた学習者に対して、必要な支援をしっかりと行うことで、最高の教育効果が期待できます。正に、理想の教育のあ

り方ではないでしょうか。これは、子どもと教員の関係であるばかりでなく、若手教職員とベテラン教職員の関係にも通じるものがあります。若手教職員が増えてきた現在、人材育成の観点からの関わりは今後ますます重要になってきています。今さらながら、あの時の校長先生からのお言葉の重みを感じている今日この頃です。

学び続ける教職員の育成と校内 OJT を支援します

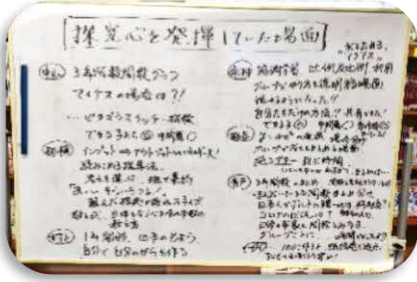
教育センターの基本姿勢は、「学び続ける教職員の育成と校内の OJT を支援する教育センター」です。教職員の方々が日々の学校での業務を遂行する中で力をつけていただくために、研修はどうあるべきかということを中心に問いながら、教育センターの事業を進めております。教職員研修は、県の定める「教育職員人材育成基本方針」に基づいて、キャリアステージに応じた研修を実施しております。しかしながら、やらされ感のある研修では、効果は薄いものになってしまいます。これらの研修が、より効果を発揮するためにも、求められる資質・能力について一方的に研修を行うのではなく、教職員自身がこれからどんな力をつけて職務にあたりたいのかを引き出しながら、研修を進めていく工夫をしていかなければなりません。受講者の想いに寄り添うことのできる研修をいかに構築できるのか、教育センターの腕の見せ所であると感じております。研修だけでなく、学校への支援も含めて「啐啄同機」をめざします。「ただ学校のお役に立ちたい」という強い想いで、教育センターの全所員が学校を支えてまいりますので、教育センターの事業にどうぞご期待ください。

中学生の理数探究心育成事業 ～中学校数学理科教員リーダー育成研修～

令和4年度より2カ年の計画で、「中学生の理数探究心育成事業」を実施しています。目的は、本県で不足している産業人材の育成に向け、中学生の理数探究心の高揚を図り、高校段階において理系への関心が高まるよう、理数教員の授業力のさらなる向上を図ることです。令和4年度は、年間6回の「中学校数学理科教員リーダー育成研修」を実施します。令和5年度は、県内の中学校すべての数学科及び理科の教員を対象に2回の「授業力向上研修」を実施します。いずれの研修も基本的にはオンラインによる半日の開催を計画しています。

5月27日に島根大学教育学部附属義務教育学校において実施した第1回リーダー育成研修での受講者の感想を紹介します。

- ・授業者の先生が明確な評価基準をもっておられる様子を、自身の意識も高まりました。少しでも島根県の目指す教育に自分の力を役立てたいと思います。
- ・公開授業ではたいへん刺激を受けました。「授業の単元づくり」では単元計画の重要性と生徒の探究心を高めるための工夫など他の先生方から学ばせていただけるよい機会となりました。
- ・授業者のねらいがどこにあるかによって、生徒の自由な考えの幅が変わってくると思いました。また、1つの授業が単元の中でどのような意味をもっているかを考える必要がありました。
- ・公開授業を通して仮説を立てる授業の流れを知ることができたため、午後の単元計画が立てやすくなりました。また、学習指導要領解説を読み込まないと授業の軸が明確にならないと思いました。



令和4年度 教育研究発表会

今年度は、〔第1部〕として5月13日～31日に研究発表と研修報告をオンデマンド配信し、〔第2部〕として5月21日に4校種の実践紹介と講演をライブ配信で行いました。たくさんの方に参加していただきました。ありがとうございました。発表や講演への感想、配信の様子をご紹介します。

講演 「GIGAスクール構想の実現に向けたこの1年とこれから」

講師 国際大学グローバル・コミュニケーションセンター

主幹研究員・准教授 豊福 晋平 氏
 客員研究員 今度 珠美 氏

【実践紹介】

「私のICTを活用した教育実践

今、そしてこれから」

西ノ島小学校	教頭	福島大介先生
吉田中学校	教諭	谷口将人先生
津和野高等学校	教諭	山根幸久先生
出雲養護学校	教諭	天根佑介先生



～いただいた感想から～

- ・「失敗」を「財産」ととらえること、デジタルとアナログのバランスをバランスよく使い分けていくことなど、先生方からの発表から学んだことなど校内での啓発や実践につなげていきたいと思えます。
- ・学級での共働的な学びのためには、互いに学びあう、互いに尊重しあう学級経営が必要である。スキルとモラルの指導も同歩調で進めていくことがより効果的な学びにつながると感じました。
- ・端末によるトラブルに対し、少し恐怖心を持ちすぎていたかなと感じました。トラブルを繰り返す子は様々な背景を持っており、端末が悪いわけではないという言葉が印象に残りました。



「個別最適な学び」に向かうための、 私たちのパラダイムシフト

浜田教育センター研究・研修スタッフ

「個別最適な学び」とは？

子供たちが生きていく社会は Society5.0 の時代です。今よりもっとテクノロジーが進歩した超スマート社会を生きていく子どもたちに対して、今一度学校教育の在り方について検討し、令和3年1月に中教審答申*が出されました。ここでは、これまでも個々の子供たちに対して行ってきた「個に応じた指導」を学習者の視点から整理した概念が「個別最適な学び」だと示しています。

今までの教育とどう違うの？

それは、今までの指導が本当にその子の学び方としてフィットしていたのか、その子ならではの学び方なのか、子供目線で見直してみよう、ということを示しています。

学校の先生に求められることは？

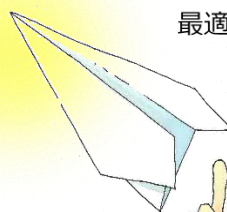
これからの教育に求められることとして「主体的・対話的で深い学び」の実現があります。これは、学習指導要領（平成29年及び平成30年告示）でも示されています。この学びの実現のためには、子供自身が自分の学びを自分自身で理解し、目標や目的に向かって自己調整していくことがのぞまれます。ゴールが分かっている、学び方が分かれば、そこに向かって粘り強く取り組むこともできます。主体的に学習に取り組む態度の形成です。そのためにも、自分は何が得意で、どうすれば一番学べるのかを知ることができるような手立てを講じる必要があります。先生は、子供たちが「自ら学ぶ」状況をつくる場面をつくることも求められているのです。

一方、協働的に学ぶことでしか得られない学びもあります。協働的な学びと個別最適な学びとを一体的に充実させることを、教育課程の中でどう位置づけるかも、見極めていかななくてはなりません。

二項対立の陥穽に陥らない、一体的に充実を図ること

一斉指導か個別学習か、デジタルかアナログか、履修主義か修得主義か、遠隔/オンラインか対面/オフラインか…授業の内容や取り組む課題によって見極めること。どちらか一方でなく、これらをどう一体的に進めていくかということも大切になります。（陥穽…落とし穴、わな。人を陥れるための計略）

島根県教育センター浜田教育センターは、西部の学校を支える先生方に寄りそう「西部地区の教育機関」です。今年度も、研修や教育相談、学校訪問を中心に、様々な業務を行っています。今回は、研究・研修スタッフがR3より研究をおこなっている「個別最適な学びと協働的な学びに関する一考察」についてお伝えします。



パスワード
r3hamase

昨年度の研究動画はこちらから！

何からはじめればいいのか？

浜田教育センターの研究では、「先生の学習観のパラダイムシフト」「子供の学びのパラダイムシフト」として、学習者目線に立った学びの再構築を提案しています。「今のままで良い」ではなく、真にその方法で子供が学んでいるのかということを見直してするために、先生方の目線あわせは必要です。そこからはじめてみませんか。

*『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会

※OJT 研修 日常の教育活動を通して、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身につける研修
Off-JT 研修 日常の職務を離れて、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身につける研修

島根県教育センターホームページ 特別支援教育のページ

特別支援教育に関する疑問や悩みをおもちではないですか？
そんなとき、知りたいことがわかったり、悩みが少しでも解決したりすることを願って、ホームページにて情報を発信しています。どうぞ、ご活用ください。

子どもたちの 未来のために

各教科等を合わせた
指導って？

困っている子どもたちを
どう支えたらいいの？

自立活動って
何をするの？



教育課程って
どう考えるの？

島根県教育センター特別支援

検索



子どもをみつめる

*子どもの視点でみつめる

・子どもの視点から、言動の背景を
みていきます。

*障がいの捉え方

・子ども本人の視点と、子どもを取りまく
環境の視点から指導・支援を考えていき
ます。

・6つの事例を挙げて説明しています。



授業づくり

① 自立活動ってなんだろう？

*理解編

・12のQ&Aで説明をしています。

*実践編

・自立活動の個別の指導計画作成の
手順とポイントを事例に沿って説明して
います。(2種の様式のシートで)

・自立活動の授業づくりに役立つシートの
ダウンロードができます。



その他、多数の資料を掲載しています！



来所教育相談のご案内

学校教育や家庭教育に関する様々な不安や悩み、心配事について一緒に考えます。
お気軽にご連絡ください。お申し込みは下記の電話番号で受け付けます。

島根県教育センター

松江市内中原町 255-1
相談日：毎週火～金曜日
時間：9時～17時
電話：(0852)22-5876

浜田教育センター

浜田市長沢町 1550-1
相談日：毎週月～金曜日
*水曜は午後のみ
時間：9時30分～17時
電話：(0855)23-6784

“こころ・発達”教育相談室

出雲市下古志町 1574-4
相談日：毎週水・金曜日
時間：9時～16時50分
電話：(0800)200-1556

- 幼児から高校生**までの子ども・保護者が相談対象です。
- 相談は**無料**です。
- 教職員対象**のコンサルテーションも行っています。
- 相談内容についての**秘密**は守ります。